'96.10.-5
'96.10.-4

1996年（平成8年）10月　第15号

発行責任者
小林　孝栄
〒180 武蔵野市中町 3-5-5-106
TEL 0422-55-3387

関東浪速工業会 会報 15
都島だより
KANTO NANIWA KOGYOKAI NEWS

投稿送り先
馬江　治喜
〒233 横浜市港南区野庭町696-6
TEL 045-841-8885

今年の前半から

会長　小林　孝栄（E29）

昨年の年末に会長をお引き受けして早や一年が過ぎようとしています。今年も例年のごとく、「総会」にて役員改選をし、通常の一年間の行事をこなしているのが現状ですが、今一つもりあがりがなく責任を感じております。

この原因は何であるのか!!明解にできませんが。前回のMニュースでも書きましたが、自分達の同窓会での出席率は非常に高く話題が多く盛り上がるのは、三年間という長い時間の付き合いから自然に同窓意識が高いからでしょうか。

世の中は自分本位の意識になりがちですが浪速工業会仲間は今迄の長い歴史から来る、年代を超えた同窓意識が強いと思っております。もっと活発に会の活動を盛り上げたいものです。

今年は稲生さんの努力で「日本銀行本店」の見学を実施致しました。多数の御参加ありがとう御座いました。歴史のある建物と「お金」の移り変わりを展示している「貨幣博物館」を見学したわけですが、企画が良ければ多数の参加が期待出来ることがわかりました。当日日銀食堂にて簡単な「懇親会」を催し、その後場所を変え幹事会を開催致しました。幹事会の場所は神田須田町にある「串あげ屋」さんで行いました。今迄の場所とは少し雰囲気を変えてと実施致しました。これに対しては幹事会であるからもっときちっとした所と云う考えもあろうかと思いますが、少し目先を変えればと実施致しました。

夏のイベントは、夏休み中の会員の方の子供、孫、友人を狙って「東京ドーム」の野球観戦を企画いたしました。これは夏休み中に実施できず、巨人戦がとれなかったのですがパリーグの優勝を争っている日本ハム対オリックス戦を九月十日に実施を致します。イチローを見ましょう!!夏休み中に出来ず残念に思っております。

皆様が参加してやろうと思う面白い企画をすべく努力を致しておりますが、今少し努力が足りず残念に思っております。良い企画、面白い企画があれば提案して下さい。今後の為に!

それから大阪の本部の催し物に参加し、本部との連携を深め、もっと年代を超えた同窓意識を高めて行きたいものです。

お知らせ

■講演会開催の件

○講師　田中瑛也先生
　　A27年卒
○題名　『地中海文明の源流をたずねて』
○日時　10月17日（木）
　　18時00分から
○場所　凌霜クラブ
　　有楽町帝国劇場
　　地下モールB2階
　　電話03-3213-8086
○費用　参千円

講演終了后田中先生を囲んで軽食しながら団欒いたします。講演ではカラースライドを見ながら楽しく有意義なお話を聞けます　定員30名ですので申し込みは各科幹事迄お早めに。

つらかったこと、嬉しかったことが重なった一日の想い出

（A15）　松原　正

私達の若い時代には男子は数え年二〇才以上になると徴兵検査を受けさせられ合格した者は兵役にゆかなければならない義務があり翌年指定された期日に現役入隊することが義務付けられていたことは戦前の皆様方にはご存知のことゝ思います。

さて私も昭和十七年二月一日「たんば」の篠山の部隊に現役入隊する通知を受けておりました。前年の昭和十六年十二月八日には日米開戦となり戦局は連戦連勝に酔いしれていた時期でした。

運命のいたずらと云うのでせうか昭和十七年の新年早々から母が病を得て病床に臥するようになり日々の経過も思わしくなく看病の甲斐なく急変し一月二十九日の夕刻私の入隊の日を待たず私のことを心配しつゝ返らぬ人となりました。

さあ大変入営祝いと葬式が重なり「てんやわんや」となったのは云う迄もありません。

お通夜には親戚はじめ会社の方々も来て頂き複雑な気持ちで共に過ごしました。

私の入隊は二月一日でしたが前日の三十一日篠山の指定旅館に集結するよう絶対命令が届いていたので私は三十一日の午前に家を出発、午后より母の葬儀と云うこととなり、母親の葬式もせず出発する心境はとても複雑なものであったことは確かでした。

大阪駅のプラットホームには見送りの人であふれ私も大勢の方々の見送りを受け福知山線の篠山行きの列車に乗り込み窓から皆様方にご挨拶している最中発車間際に思いもかけず都工建築科長の中野順次郎先生が人込みをかき分け駆付けて下され「松原君事情は高木君（大林組にいた級友）から聴いた。力を落さずしっかりやってこいよ」と暖い激励の言葉を頂き発車ベルが鳴響くなか中野先生の音頭でプラットホームにて高らかに万歳三唱して頂いた感激的シーンが瞼に浮んで参り今さらなつかしく五十有余年昔の想い出として残って居ります。（十日後には下関より乗船戦場へと向かうことになる）

◆納涼イベント報告

今年の納涼イベントは9月20日㈫熱パの優勝を左右する日本ハムvs.オリックス、東京ドームナイター観戦を実施しました。

参加者は家族同伴、仕事仲間等、多彩な顔ぶれで総勢21名。

小林会長から全員に生ビールの差し入れもあり、弁当を食べながら、プロのスピードに酔いつつ残暑の一時を過ごしました。試合の方は3対2でオリックスが勝ちマジック『M9』が点灯しました。（E47　松本記）

発展するアジアの諸都市

（E41）　中野　正義

私は電設会社に勤務していますが、6月に㈱日本地下鉄協会が組織した「アジア交通事情視察団」の一員に加えていただきソウル・北京・上海・シンガポール・台北の地下鉄を訪問する機会に恵まれました。

ソウル市の地下鉄はかつて日本の協力で建設したものをさらに発展させており、今も大規模な延長工事が行なわれていました。

シンガポールの地下鉄は8年ほど前に営業開始したそうですが、運輸交通インフラに惜しみない投資をする同国の政策によるものか、近代的で清潔な素敵なものでした。

台北では来春の開通を目指し最後の追い込みと言った様子でした。

香港の地下鉄は英国はじめ欧州の車両等の設備、日本の土木・建築など世界の技術を効率的に集め建設・運営を行っているように見えました。

上海の地下鉄は香港を手本にしたように思いますが、3年前の開業との事で駅・車両共エアコンが良く効いて快適なものでした。見学させてもらった完成直前のある駅はコンコースも広く、壁面のレリーフが美しい素晴らしいものでした。但し、地鉄（中国では地下鉄の事を地鉄と言う）運営公司の幹部の方は「予算等の都合で独の車両を採用したが故障で一時間程度マヒする事が時々あって困っている」と率直に話されました。

「日本では万が一車両の一部分が故障しても車両自体にバックアップシステムがあり長時間マヒする事など全くと言って良いほど無い」と仲間の一人が話すと感心していました。但し日本製の車両が世界一高価な事も御存知でした。上海市内を見学して、他の都市に比べて特に活気があり成長の著しさを感じました。

同じ中国でも北京の地下鉄は三〇年近く前に開業しており（小生の想像では旧ソ連の協力で建設されたようです）現在も延伸工事中です。料金は上海と同じ、2元（約26円）で市民の足はバス・トロバス・自転車が今だ主（勿論タクシーも多い）のようですが、所得の増加（市民の月収は800元程度）により地下鉄の利用者も増えると見ているようです。

「北京市地鉄総公司」の幹部の方が公司（会社）の運営の全て（料金を含め）は北京市政府と中央政府に国策に従い統御されており赤字経営を余儀なくされていることを率直に話された事には解放政策のせいかと少し驚きました。公社の総計理（社長）はよく訪日するとの事で日本の地下鉄事情にも詳しく大変

歓迎していただき市内の酒家（レストラン）で北京料理を御馳走になり北京ダックやサソリのカラ揚もおいしく頂きました。

日本は経済政策の失敗から経済停滞を来していますが、今回訪問したアジアの各都市はダイナミックに経済発展を遂げているように思いました。各都市も経済発展による人口増加に伴う交通渋滞と排気ガス公害に悩んでおり解決の決め手として地下鉄の効用を認識し、営業距離を伸ばすべく建設を急いでいます。

北京に行く機会があればぜひ観たいと思っていた京劇を観る事ができました。京劇は中国に古くからあったいろいろな芸能を集大成して１５０年ほど前に完成した歌劇です。顔にくまどりや厚化粧を施したり、仮面をつけたりしてアクロバット的な動きのあるもので観ていて大変面白く、日本の歌舞伎に近いものです。

次回は中国の古都を観光で巡ってみたいと思っています。

市民菜園

（Ａ45）　田辺　孝次

今年の春から、横浜市の市民菜園を借りてる。さほど興味がなかった私だが、土に接することで、心のゆとりを持てればと。そして、何より応募好きの妻がいつの間にか出していたはがきに、みごと当選（?）通知が来ので、意気揚々と始めたのだ。

畑に行ってみれば、８ｍ×11ｍの草ぼうぼうの土地。残念ながら前の人がやる気をなくして放ったらかしたような畑だ。

まず、くわ、スコップを買うことから始まり、草抜き、土地の耕し、石灰での消毒、肥料入れと、四月の休みの日はほとんどその作業に費やす。たかが88㎡の土地なのに、腰は痛いわ、腕、首までも痛くて、もう、大変。平日できない私は耕すにも、つい力が入りムキになるのでなおさらだ。見よう見まねで、うね作りまでした時には、体中がガクガクだった。

さて、何を植えようか。トマト、キュウリ、ナス、枝豆、じゃがいも、里芋…。

苗を買いそろえて、早々と植え、他の人がまだ耕しているのに、「我ながら要領良くできたなあ。」なんて得意気味。しかし、四月末といってもまだまだ寒く、風も冷たかったのだ。今にも枯れそうになる苗。ベテランの人は土作りにゆっくり手間をかけ、連休明けに植えだした。しかも、ぴんといい苗。まあ、初めてなんだからと、お金に物を言わせて、もう一度、苗を買い足す。そうこうしているうちに、雑草抜き、支柱立て、次々とやることが出てくる。スーパーに並んでいる野菜もこんなに労力が使われているのかと、今さら驚く。

余談になるが、畑には作る人の性格が表れていておもしろい。手入れがゆき届いてきちんとしている人、私とどっこいの人。畑も千差万別でおもしろい。

そして、多大な労力とお金を投資して、とうとう、じゃがいもの収穫を迎えた。家族全員で大騒ぎ。まるで、幼稚園児のようなはしゃぎよう。ダンボール一箱の宝物。もちろん旨さは格別。夏野菜も次々収穫でき、来年も借りようかなあと思う。今度は、じっくりと土を耕して…。畑作りも土台が大切で、我々の生活に通じるものがありそうだ。

仕事以外に趣味を持ち、気分転換するのはじつに楽しい。

浅草の風（４）

（Ｍ17）　横山　武男

あとがき

今年の二月に「夕酒を楽しむ」の題で小冊子をまとめたが、これを読んで頂いた人たちから酒に関する資料があると見せてもらったり、また、浅草が好きで良く来られるから、浅草界隈のことなど、まとめたらとの助言も頂いた。

こんな訳で、散策したところなどを掘り下げて書きだしてみた。

台東区の一部、浅草を主にしたが、まだまだ、見てあるきが山ほどある。私が生まれたところは、隅田川に匹敵するような川の近くだったので子供の頃、父に連れられて川釣りによく出かけ、学校が終わると夏など毎日が川べりで遊んだので、川の匂いをよく臭いだ。川に落ちて助けられたこともあった。

東京に来て、綾瀬川の近くに住み、また隅田川にもきて、橋の上で川の匂いを臭ぐのが好きである。川も大分きれいになってきているので楽しい。

川風が四季を通じていろいろと感じるので、題名を風とした。勿論、風に連なる熟語、風俗、風習など連想しながら散策している。

下町の人情を知るには、郷里から出てこられた人達が戦災後完璧に廃虚となった下町でお互いに助け合い、引き合った男女の話を少しでも知らないと本質を見分けられない気がする。苦労した人達の子供は、もう五十歳位になっている訳である。親は愚痴もこぼさないのではないか。

また、下町の路地など興味がある。路地というのは、不思議である。そこにはしもた屋ばかりでなく、商店もある。あの店はどこにあったかと後で思い出そうとしてもどこの路地のどの辺とはなかなか浮んでこない。それなのに、もう一度行ってみると、ちゃんとたどりつく。

頭でなくて体が覚えている。

交通量の多い道路、信号のある通り、信号のない通りなどから、路地に入ると、その町の生活事情がよくわかる。

このメモは、散策の途中で、公園や川端にて休息するときなどで読み補足していきたいと考えている。

（平成６年７月22日　記）

楽屋つれづれ(1)

金田龍之介

◎　庭の去年摘んでしまった紫陽花がまた芽を出し、葉をつけ、枝を伸ばして緑の一群を造っている。朝出がけに見たら小さな花もつけていた。それにしても六月というのに寒い日が続くなあ。それに小雨も多い、まあ梅雨だから仕方がないか。

◎　何かを裏返しにして見る。今まで正しいと思っていたものを、美しいと思っていたものを、逆に正しくない美しくないと思って見る。強いものは本当は弱いんだと云うふうに。又違ったものが見えてくるかもしれぬ。役つくりの心得にしている。

◎　真夜半、目と目の間に激しきかゆみ、これぞ伝説の、我が祖父の命縮めた面疔ならんか、心せよと、天界より、お祖父ちゃんの声が聞こえた。とび起きて出て、かゆいところを化粧液で消毒し軟膏を塗るのだ。（毎日メーキャップするから顔のトラブルには人一倍気を使うのです）

◎　「四丁目のジージを追ーえ…」と三才の孫娘ミカが歌っている。ふしはテレビのウルトラマンの歌の節だそうだ。そのジージとは私の事で、電話で歌ってくれるのでたのしみだ。」

◎　ロングランなので日比谷までの通勤車内で、これも長い「徳川家康」を読もうと頑張っている。楽屋では「白鯨」を音読している。ミュージカル「回転木馬」の「鯨取りの歌」の場の人達の日常生活を深める為に役者の芸は読書によって助けられる。

◎　帝劇Ｂ２の喫茶店に開演二時間前片隅で憩う若い女性達がいた。挨拶して話してみると九月二十四日千秋楽のチケットが今日発売の由。それを買う為に並んでいたそうだ。出演者の私としては大変感激して、おそまつな木馬の絵葉書差し上げた。そんな情熱にくらべて私の知人の男達に知らせても返事もくれない。暇も興味もないと云うところだろうな。返事くらいくれよなあ。

◎　電車の中で読書するのには運不運がつきまとう。やっと座れて読み出すと旅行帰りの団体なんかがドドドと入り込んで来て思い切り大声で喋り始める。運良くそういうのに出合わなければ天井の明かりと本の間に新聞をワサッと広げて薄暗がりを造ってくれる人がいる。もう一つ折り畳めばいいのに。前に立った女子大か専門学校生の酔っぱらい女性二人が外国語入門のお浚いを始め、今度はショルダーバックを目の前にプラーンと投げ出してきた「おい邪魔だよ」と注意したが完全にこちらの言い分は無視。「ご免なさい」とも云わない。嫌な女だなと思って腹が立ったが「忍耐」が大切、千秋楽までの大切なお観客さんの事を忘れるなと自分に云い聞かし、じっと目をつぶって竹の塚で彼女達が下りて行くまで我慢をした。その後また安心して再開しゆっくりと読んで帰った。

次号続く

筆者の横顔

昭和三年六月十五日東京市本所松阪町に生まれ、幼児の時大阪へ転居。大阪市立都島工業で中野陽路氏の六年後輩。二四年都島工専卒業後技術者の道を断念、新劇俳優を志し、昭和三一年新派の伊志井寛に師事、以後十八年在籍その後フリーとなり現在に至る。

その間、大阪十三夜会賞・大阪府民劇場奨励賞・菊田一夫演劇賞・日本放送作家協会男優賞など受賞。

◆日本銀行本店見学会報告

Ｍニュース14号にて皆様にお知らせいたしましたが６月21日㈮機械科卒の稲生様のお取り図りにより日本銀行本店内及貨幣博物館を見学することができました。皆様御多忙にもかかわらず総勢23名旧本館入口より中庭へ入りましたが、入口では警備がきびしくさすがに日本銀行だと思いました。まず一番にビデオにて日本銀行の歴史及役目を拝見いたし日本銀行は通貨価値の安定と信用制度の保持・育成という使命の達成を通じておカネの番人、通貨の番人として活動しているのがよくわかりました。又一億円の札束を持ちましたが思っていたより重く又大きなものと感じました。新館旧館内を廻り歴代の総裁の絵画による額縁を見たりしました。次に貨幣博物館へ行き、我国の古代・中世・近世・近現代の貨幣史を現物を見ながら貨幣の歴史を感じました。特に江戸時代の大判、小判を見ると時代劇を見る様な気持ちになり又明治以降の貨幣では、ある先輩はなつかしそうに見ておられました。博物館を出て日銀内のレストランにて各自ビール等の飲物を飲みながら、親しく懇談して有意義な半日を終り解散いたしました。

参加者Ａ松原・牧・西坂・酒井・田辺・Ｃ西谷・太田・榎本・Ｍ稲生・若佐・小川・岡野・橋本・石川・Ｅ上畑・加藤・笹本・島・松尾・戸部・岩崎・小林・（敬称略）馬江計23名でした。

（Ｅ36）　馬江記